

透析を受けている患者さんへ ～ 大災害時に備えて（まとめ）

一般社団法人日本透析医学会 危機管理委員会

1. 持病をお持ちの方、高齢の方は、平時には元気に過ごしているように見えても、ひとたび災害に見舞われると生活に支障が出たり、体調が崩れやすいです。
2. 透析施設が被災すると、かかりつけ患者さんの治療ができなくなります。
3. 透析をお願いする相手先に紹介状を作成することもできず、行ったことがない病院に行って患者自身の持っている情報のみで透析治療を受けなければならなくなる可能性があります。
4. 大地震が透析中に発生したら、頭部に毛布等をかぶり、ベッドの柵につかまって揺れが収まるのを待ちます。
5. 揺れが収まったら屋内にとどまるか、屋外に退避するかスタッフの指示をうけ、落ち着いて行動してください。
6. 災害後はカリウム、塩分、水分に気をつけて過ごす。災害後の数日は、3日に1回、2～3時間しかできないこともあります。普段通りの治療はできないことをご理解ください。
7. 自分の身を自分で護るために行動しましょう。例えば、避難所などで透析患者であることを自ら申し出る、透析患者さんでない人も含めて数人のグループで行動する、救護所でカリウムを上げない薬剤や降圧薬をもらうなどが皆様の安全を護ります。
8. 施設ごとにまとまって支援透析を受けに行く場合はできるだけそのスケジュールに合わせていただくようお願いします。
9. 当たり前だった衛生的な生活は大災害によって壊されます。感染症に注意しましょう。
10. 復旧や生活再建まで、一時的に被災地を離れての療養も検討してください。全国の透析医療関係者、透析施設が被災患者さんを受け入れる用意をします。